

## 美術科・美術部と地域との連携について

～アートプロジェクト・トミナーレに参加しよう～地域の再興にアートの力で携わる

徳島市立高校 武田 亜希子

### 1 課題設定の理由

①徳島市立高校の美術科の授業や美術部では、生徒から要望があったとき、もしくは地域から要望があった時できるだけワークショップの実施や参加、また作品展示を校外において積極的にできるようにと考えている。今までの目的は表現する喜びに加え、評価される経験や人に見せるという経験が生徒の達成感や意欲につながっていくことが主な目的であった。以前生徒からの要望で美術Ⅰの授業で制作したシルクスクリーンプリントのTシャツをどこかで展示してみたいという要望があった。適当な場所を探していると丁度徳島市商工会議所に所属している方でギャラリーを持っているという人がいたので、そのお店で100点ほどのTシャツを展示することになった。そのお店の方も商店街を盛り上げたいという気持ちが強く、協力的で宣伝活動を生徒とともに積極的にしてくださった。メディアなどにもアピールするとともに、毎日生徒の作ったTシャツを着て仕事をし、それを毎日お店のブログでアップしてくれた。そのような協力もあり宣伝を見た人が作品を見に来てくれた。「普段は東新町になんて来ないんだけど・・・」という人も興味深く展示を見て行ってくれた。展覧会が開催されるからこそ足を運ぶ場所・・・その地域や場との新鮮な出会いをアートの力で生み出せる可能性を感じた瞬間でもあったように思う。この展示をきっかけに校外で行うアートプロジェクトをしたいという生徒の中で高まって、次の後輩にもその気持ちを引き継いだようである。

②生徒の実態・・・美術科Ⅰの生徒は選択制で美術を選んでくるのでほとんどの生徒が美術を好きな生徒である。アンケートを取ると8割が美術が好きに○をつけていた。今年は後の2割も（苦手ではあるが上達したいから選んだ）等どちらかというと意欲を持って美術の授業に挑んでいる生徒が多いようだ。（書道を選択したかったが、美術になった）と回答していた生徒がいたので心配していたが、思いの外美術の授業を楽しんでくれていて安心している。美術探求A（美術2年生）の生徒は美術系大学を強く希望するわずか3名の生徒である。なおこの3名は美術部にも所属していて、日頃から美術的な活動を活発に行っている生徒たちである。周りの生徒を引っ張っていく力を持ったリーダー的存在でもあり、仲間意識も大変強い。美術部研修にも積極的に参加した経験を持ち、展示やワークショップに大変意欲的である。美術探求B（美術3年生）の生徒は美術系大学を強く希望する8名の生徒である。そのうち4名が美術部に所属しており、元部長と元副部長を含む。1年生のときに市高50周年記念書道部美術部合同展を行った経験を持ち、高文連の行事や美術部研修にも積極的に参加している。行事に意欲的なので、3年生ではあるが何かあればできるだけ参加やお手伝いがしたいという生徒である。その他の4名の生徒も真剣に美術系大学に向けて取り組んで来た生徒である。AO入試を受けるためポートフォリオ制作や受験のためのデッサン制作などに勤しんでいる。

美術部の生徒は現在1年生が7名、2年生が5名、3年生7名、計19名である。生徒の実態は様々で美術の授業を取りながら美術部という生徒もいれば、美術の授業は取っていないが、絵を描いてみたくて入部したものもいる。美大受験のために入部したものもいれば心の安らぎを求めて入部したものもいる。学年を問わずみんな大変仲が良く、何か計画を立てるときはミーティングを行い、意欲的に取り組める。団結力もあり、また個々の目標に向かってそれぞれ懸命に頑張っている。

③教師観・・・生徒のアートに対する意欲・関心を大切にしたいと考えている。きっかけがあればアートの力で何ができるのか。生徒に考えてもらいたい。美術部として活動する生徒に達成感や成功感を感じてもらえる機会があればいいと思っている。

## 2 アートプロジェクトを引き受けるまでの経過（きっかけ～依頼承諾まで）

Tシャツ展・書道部美術部合同展など



美術部一日研修（手法の学習）遊びの作り方・ワークショップに参加



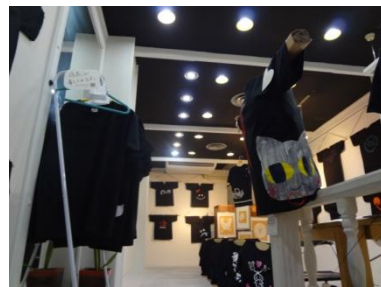
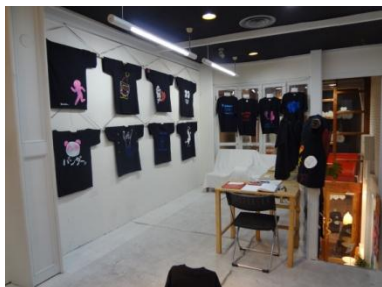
美術部のアートプロジェクトを自分でやってみたいという気持ちの高まり



アートプロデューサー間嶋さんからのアートプロジェクト参加への依頼



アートプロジェクトを行う場所の確認



市高美術選択者によるシルクスクリーンによるTシャツ展 (in チュチュチュロス東新町)



徳島市立高校50周年記念 書道部・美術部合同展



旧藤田外科アートプロジェクト  
(in 坂出市本町)

あそびのつくりかた  
(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)

美術部一日研修 2014年3月香川県

①トミナーレは主催者も手探り状態のまま依頼をしてきていたので教師側としては引き受けるのを躊躇していたが、美術部一日研修の経験で、作家の方から「みなさんもぜひアートプロジェクトを起こしてみてください」と声をかけられたこと。ワークショップに参加した経験やインスタレーションを鑑賞した経験から生徒の気持ちの高まりが強く、大変なことは承知で引き受けた。

### 3 承諾から制作まで

阿南富岡商店街のブース決め



何をするかの話し合い（美術部の中で）（美術部から商店街へ）



商店街の意向と美術部の意向



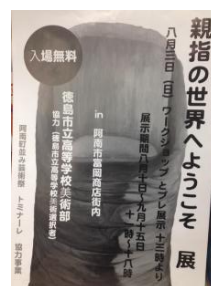
インスタレーションのための作品制作

ワークショップのための作品制作

広告活動（全員でチラシ配りに出る）



与えられたブース



広告活動

### ●インスタレーション制作過程から展示・合宿



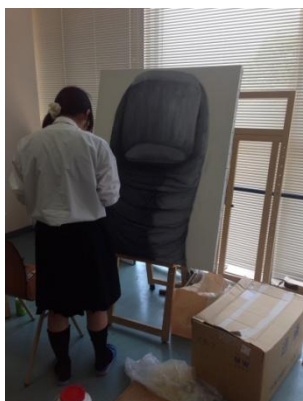
親指の彫刻の制作風景（段ボールで骨組み→新聞で補強→スタッフで補強→石膏直付け→LEDを彫刻内部に設置）



親指型ランプシェードの制作（張り子を使ったランプシェード作り）



親指のデッサンの制作（美術Ⅰの生徒による）



親指の絵画制作

●ワークショップの制作過程から実施



30代～40代の男女



30代



5歳



中学生



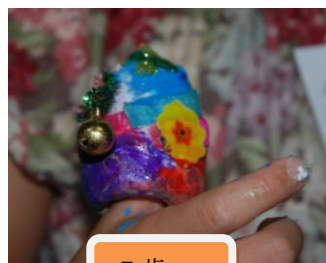
中学生・40代



30代



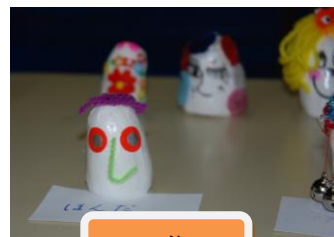
2歳



5歳



70代



50代

※ 親指の型までを徳島市立高校美術室にて紙粘土と阿波和紙を利用して制作。飾りになるものを購入し、足りない分はみんなで持ち寄って当日までに現地にトミナーレ実行委員の富岡商店街の方々と運び込んだ。どのような年齢層の人たちが来るか分からなかったので、(受付→名札をつけてもらう→材料を入れるトレイと接着剤や光沢をつけるメディウムを渡す→好きな親指の型を選んでもらう→好きな材料をとってもらう→好きな席について制作→乾かすところへ誘導→完成したら名前をつける)までの流れや人の動線を市高スタッフ一同で何度もシュミレーションした。

当日天気が悪く、宣伝効果もどれだけあるのか分からなかったのが不安だったが、小さい子どもから孫を連れてきたおじいちゃんおばあちゃん。中学生や30代～40代の方。と、様々な年齢層の方々に来ていただき賑わった。近所から駆けつけてくれた方々からお盆で故郷に帰って来た人、雨宿りに来た人まで巻き込んで8月3日(日)13:00～17:00阿南市富岡町今福寺の空きビルにてワークショップ親指をデザインしよう～親指人形の制作～を行った。

どの年代も楽しめる教材！！

#### 4 トミナーレ開催 (インスタレーションを演出するまで)



親指の彫刻には入れる



大人も大喜びで入り遊ぶ



記念撮影も出来る！！



大きな親指の彫刻はトミナーレの顔になった。



親指の内部はLEDで輝いている



和紙と LED を使ったランプシェードが2Fまで続く



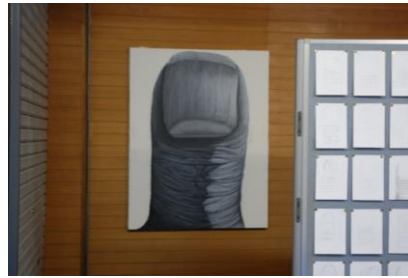
約100枚の親指のデッサンの展示



期間中来て下さった方々にも親指のデッサンを描いて貼ってもらった



外から見えるように窓に描画



親指の絵画の展示と親指を大きく描いたらどんな感じが感想文を展示



徳島市立高校のブースは新聞でも取り上げられた。



トミナーレチラシ蛭子能収さんも来られた。

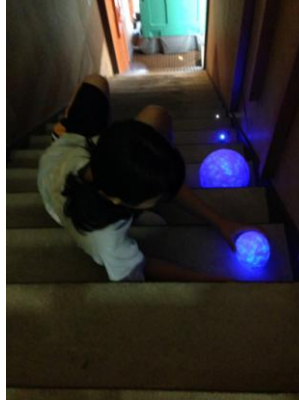


市高が配ったチラシ

●インスタレーションとワークショップのため8月1日から8月4日までの間合宿を行った。



イベントの一つでもある武蔵野美術大学教授 板東孝明さんのワークショップに参加。竹の巨大な球の制作で阿南特産の竹を素材に直径6mの球体作り。(8月4日)



4日間の合宿は大変汚いブースの掃除から始まりまった。床拭き、ゴミの処理などインсталレーションの準備にかかるまでに丸一日かかる。地域の方々も覗いてはくれたが、地域の方々の考え方との違いに悔しさを感じた場面でもあった。地域貢献とは何なのだろうか？この日のミーティング内容となり、全員で真剣に話し合う。

## 5 アートプロジェクトをまとめる結果報告と今後につなげるための映像の制作



9月7日の文化祭ではムービーメーカーでトミナーレアートプロジェクトの様子を映像で作り上映も行った。

## 6 振り返り



現在は市高芸術館 2F に作品と成果報告を展示してある。

※平成26年9月17日 第6時間目美術探求Aにおいてアートプロジェクトを振り返る授業を行う。

内容：トミナーレをまとめた映像を見て、自分なりの価値や意味について考える。トミナーレに参加して作ったメモや感想文を活用して具体的に地域貢献について考えさせる。発言内容をワークシートにまとめる。

目標：トミナーレをまとめた映像を見て、アートプロジェクトについて振り返り、その表現性がどのような社会的価値があったのか、自分なりの意味づけや価値づけができる。

<ワークシートにまとめた内容より抜粋>

- ・LEDを使用したことは地域貢献になったのではないだろうか。(※阿南にはLED地場産業が基となり工場や専門学校がある)日亜化学工場で働いている人が興味を持って見に来てくれた。アートを見に来てくれたのではないが、本当にうれしそうな顔をしていたし、差し入れまで持って来てくれたので、やって良かったという気持ちにはなった。
- ・実行委員長の阿井慶太さんが、トミナーレが終わった後に「市高生が一生懸命頑張ってくれて感謝します。」と涙を流しながらお礼を言ってくれた。地域のために何かしようという気持ちは、やる側が心をこめて一生懸命やればきちんと伝わるのが分かった。
- ・アートに携わっていない人は環境がどんなに大切か分かってくれない。ワークショップをするのに水がない、トイレがない、駐車場を提供してくれる人がない・・・というときはどうしようかと思った。先生が簡易トイレと給水を頼んでくれたからよかったものの、こちらの要求をしっかり強く伝えなければならない時もあると思った。階段の手すりが朽ちてガタガタだったのもワークショップに間に合ってた良かったが、もっともっと前から場所を見に行きチェックして、早めの対応が今後必要。
- ・トミナーレに参加できてよかったですか?→全員がYES  
ではなぜよかったと思いますか?→
  - ・自分たちもトミナーレがあったから阿南の商店街を知ることができた。
  - ・美術部が一致団結できてうれしい。今までの状況を反省できた。みんな成長できたと思う。
  - ・共同作品が作れて嬉しい
  - ・いろいろあったけど終わってみたら楽しかった。
  - ・来てくれた子どもがかわいかった。
  - ・教える喜びを学べた。教員になりたいと思っているのでよい経験

## 7 まとめ

地域の再興にアートの力で携わるということ・・・

アートプロジェクトで魅力の一つはそこで開催されるからこそ、その場に足を運ぶようになる場所であろう。アートのことが分かるか分からないかに関わらず、その地域やその場との新鮮な出会いがアートプロジェクトをする側にも見に来る側にもあるように思う。実際生徒もこの経験で得られた出会いを大変嬉しくおもっているようだ。

今回トミナーレに関わることで、今まで目標にしてきた展示をして見せる経験が達成感や意欲につながるということだけでなく、自分たちの行動が再興に携われるかもしれない、ということを期待しながら一生懸命努力した経験は、生徒にとってかけがえのない経験となったことだろう。生徒の意見にあるように、美術部を一致団結させることやリーダーの育成には大いに役立ったと考えている。

しかしながら実際はアートプロジェクトを行う以前にたくさん問題をかかえていることに直面した。そのせ

いで全くアートをするような環境が整わないというような困難にみまわれたが、富岡商店街のような地方の商店街の経営者不足と空き店舗増加、高齢化と建物の老朽化のような商店街の衰退という社会問題を目の当たりにして、若い世代がどう感じたかは大変興味深く、むしろこの苦しい状況を今経験できたことが良い経験とは決していえないが、今後の課題やよい人生経験になったのではないかと考えている。

また、ワークショップでは自分たちの考えた教材が年齢を問わず楽しめる教材であることを実証できた。ワークショップに参加する人の気持ちを考えスムーズに事が進むように何度もシュミレーションした経験も貴重な経験であったと思う。普段の美術部の制作では相手のために何か作るというような経験がきわめて少ないからだ。

今回中心になってアートプロジェクトを進めた生徒は将来美術教育に関わろうと思っている生徒やデザイン、映像に関わろうと思っている生徒である。今後の活動の中で背景にある環境や原因を考えてアートの力で何ができるのか解決策が考えられる能力をより一層身につけていって欲しいと願っている。

## ☆注釈

アートプロジェクト・・・作品そのものより制作のプロセスを重視したり、美術館やギャラリーから外に出て社会的な文脈でアートを捉えたり、アートを媒体に地域を活性化させようとする取り組みなどを示す。

インスタレーション・・・据え付け、取付け、設置の意味から転じて、展示空間を含めて作品とみなす手法を指す。彫刻の延長として捉えられたり、音や光といった物体に依拠しない素材を活かした作品や、観客を内部に取り込むタイプの作品などに適用される。特定の場所と密接に結びつく（サイト・スペシフィック）ことや、多くは短期間しか存在しないなどの特徴も付随する。

ワークショップ・・・もともとは「仕事場」「工房」「作業場」など、共同で何かを作る場所を意味していたが、最近では問題解決やトレーニングの手法、学びと創造の手法としてこの言葉が使われる事が多く、あらゆる分野で「ワークショップ」が行われている。通常ファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するものとして運営される。近年は企業研修や住民参加型まちづくりにおける合意形成の手法としてよく用いられている。アート関係では、展覧会、公演などでもなく、アーティストから何かのスキルを教わる教室でもない、芸術の創作過程を体験し、アーティストと参加者が双方向に刺激しあう場を、ワークショップと呼ぶことも多い。



ワークショップ完成.wmv